

あなたの「？」を「！」にする。

プロフェッショナルひろば

株式会社なないろのはな

石川県金沢市青草町88番地 近江町いちば館5階
https://7716nohana.com/



なないろのはな
NANAIRONOHANA

2018年7月16日設立。バックオフィス業務の課題に対し、業種や規模に応じたクラウドツールの提案や導入支援、アウトソーシング、コンサルティングなど複数の解決方法を提案し、管理部門を強化する仕組みづくりを得意としている。企業の風土や文化を尊重しながら労務領域（勤怠管理・給与計算など）のシステム化や業務改革を行うことにより、多くの経営者や現場担当者から「安心して新体制へ移行できた」と好評を得ている。2023年、全国クラウド実践大賞で中小企業支援賞、2024年度「OBC 奉行 Award 2023-2024」において「Project of the Year」を受賞。

課題
？

10年もすると経理・労務経験者が激減？ 中小企業の悩みは後任者がいないこと

中小企業のバックオフィスを支えてきたのは女性
今後退職で急激に減っていくのに採用ができない

今、地方の中小企業において最も困っていることの一つが、バックオフィス業務の人材不足です。中小企業の経理・労務・総務業務を支えてきたのは、主に事務職に就いてきた女性たちでした。しかし、今の若手人材ではバックオフィス業務で働く人たちが減り、募集しても集まらないのが現状です。

今は何とか、昔から働いている女性たちが業務を行っていますが、いずれ定年を迎え、退職していくことになります。家族経営、オーナー系企業であれば、社長の妻が経理や労務、総務

を仕切ってきましたが、年齢的に退職せざるを得ない状況が迫っている企業も少なくないでしょう。

問題は、バックオフィス業務が属人化してしまい、特定の人以外はタッチできなくなっていることです。そうした状況下で、後任者がいない、募集しても人材が来ないのでは、ある日突然会社のバックオフィス業務が止まってしまう事態になりかねません。あと10年もすれば、ベテランの従事者が続々と退職していくことが予想され、これは喫緊の課題です。

もう避けては通れないバックオフィスのシステム化
問題は導入から定着までを支援できる担い手の不足

そこで、バックオフィス業務従事者の大量退職時代に重要となるのが、経理や労務・総務業務のシステム化です。手作業やExcelで行ってきたために属人化してしまっている業務を、システムの導入とマニュアル化によって、誰にでも担える平易な作業にアップデートしていくのです。

システム化とマニュアル化に落とし込めれば、例えばオーナー系企業であれば、会社を継ぐ2代目、3代目の妻が先代に代わって業務を継承することも比較的容易になります。ある

いは、この際会社の経営をオープンにして、他の社員にバックオフィスを担ってもらう選択も考えられるでしょう。さらに、システム化さえしておけば、外部の業者にバックオフィス業務をアウトソーシングすることも可能になります。

しかし、問題はこれらの業務を理解し、かつシステム化の支援を行える業者が圧倒的に不足していることです。税理士事務所や社労士事務所もこうしたシステム化を苦手とし、顧問先への提案ができない場合も多いのではないのでしょうか。

今回のプロフェッショナル

株式会社なないろのはな
代表取締役
はし あきこ
橋 亜希子氏

複数の中小企業で経理や給与計算、総務業務を担当。土業事務所勤務の際に、中小企業には法の専門家と実務のサポーターの両軸が必要と感じ、バックオフィスのコンサルティング事業を開業する。特に勤怠管理と給与計算といった労務の実務のDX・業務改革を得意とする。



解決策
！

大本命は勤怠管理・給与のシステム化 奉行シリーズは連携もカスタムも容易

難しいDXの前に最初に着手すべきことがある
勤怠管理・給与のシステム化で一気に業務が楽に

では、バックオフィス業務のシステム化の中で、どこから始めるとよいのでしょうか。その答えは、勤怠管理と給与計算システムです。この2つの業務は、バックオフィス業務の中で最も手間がかかり、正確さが必要でミスが許されない業務です。そのためシステム化によって大幅な集計時間の削減、正確性の向上による確認時間の削減ができ、作業時間を一気に減らすことが可能です。さらに、前任者の属人化した知識やノウハウがシステムを通じてマニュアル化されその業務が明らかになること、そして明確になれば社内での人員確保が難しい場合にはアウトソーシングするという選択もできます。

私たちは、それぞれの企業の実情に合わせて業務を整理し、最適なツールを選んでシステム化することを得意としてい

ます。実は給与計算システムとして私たちがよく提案しているのが「給与奉行クラウド」です。給与を計算する仕組みは会社によって千差万別です。「給与奉行クラウド」であれば、その会社の給与の仕組みに合わせて細かく設定し、計算式まで組み立てるように設計されており、あらゆる会社でミスなく使いやすい環境を構築できるからです。また、勤怠管理では「奉行Edge 勤怠管理クラウド」を提案することもあれば、他社のシステムをおすすめすることもあります。「給与奉行クラウド」が同一シリーズのシステムでなくてもデータ連携に優れており、あらゆる勤怠システムの受け皿になれるからです。

当社ではシステムの選定から導入支援まで、担当者が使いこなせるようになるまでをサポートしています。

バックオフィスの業務をいかに継続していくか
私たちの取り組み事例もぜひ参考にしてほしい

バックオフィスの人材確保は、私たちも同じ課題を抱えています。実は当社は「ぜひ採用してほしい」と求職者の方々から多くの応募があります。その理由は、出社でも在宅でもよいと選択肢を与えていることと、働き方を社員が決めていることで、就業規則も社員が考えて労働局に提出しました。基準となるのは、家庭の都合を優先し、プライベートと仕事のバランスを適正に維持するためのルール作りです。社会にはそれができる職場環境を求めている方が多く、結果、当社は求職者が後を絶たない状況になっていると推測しています。

では、なぜそのような環境を求めているかといえば、今は家庭や家族の事情が複雑になっているからです。介護が必要な家族と同居している方、学校に通えない中学生や高校生のお子さんがいる方、パートナーとの生活に限界を感じ自立し

たいと考えている方など家庭環境の制限は様々です。そうした中、当社であれば働く環境さえフィットすれば、これまでの経験や知識を十分に生かして仕事ができます。私たちは安心して仕事ができる職場を提供できることが強みであり、女性の活躍を推進する企業が受けられる厚労省の「えるぼし認定」も取得しました。

「私たちは、「組織も人も、"らしく輝く"環境が整うこと」を目指しています。

企業は一社一社、違う歴史と組織風土を持っています。良いものを壊すことなく、大切にしながら進化させていくこと。「なないろのはな」は、そんな大切な花を一つ一つ大切に育てていくことをサポートしていきます。